

関係各位

山口市長 渡辺 純忠

第23回中原中也賞の発表

受賞詩集	たぬき はこ 狸の匣		 <p>※画像データを御希望の方は、中原中也賞事務局まで御連絡ください。 (090-4575-1090 19:30まで)</p>				
著者名	マーサ・ナカムラ						
出版社	思潮社	刊行年月日				2017年10月31日	
著者の住所	さいたまけんきたかつしかぐんまつぶしまち 埼玉県北葛飾郡松伏町						
年齢	27歳	生年月日	平成2(1990)年10月6日				
性別	女	職業	会社員	最終学歴	早稲田大学文化構想学部 文芸・ジャーナリズム論系		
<p>《コメント》</p> <p>中原中也賞受賞の連絡を受けて、中也から背中を押してもらった気持ちです。</p> <p>会社員生活で時間的余裕のない中で、詩集を刊行するにあたり十分な時間を確保できず、刊行を諦めようと思ったことが何度もありました。それでも刊行することができたのは、編集者や関係者の方々のご尽力があったからです。</p> <p>昨年10月、石川県金沢市に行った際、中也の詩「サーカス」にインスピレーションを与えたという大櫂^{けやき}に出会いました。思いがけず中也がこの世界に生きていた証を見た気がして、とても不思議な気持ちになりました。中也の「サーカス」の詩のような、心に残る詩を書いていけたら幸せです。本当にありがとうございました。</p>							
<p>《選考経過》</p> <p>公募、推薦の詩集174点について本年1月に開催された推薦会の検討の結果、海老名^{えびな}名^{あや}『きよりかん』、田中^{たなか}さとみ『ひとりごとの翁』、十田^{とおき}撓^な子^と『銘度利加』、橋本^{はしもと}シオン『これがわたしのふつうです』、藤本^{ふじもと}哲明^{てつあき}『ディオニソスの居場所』、い^いば^いし^しよ^よ、マーサ・ナカムラ『狸の匣』、た^たぬ^ぬき^き は^はこ^こ ま^まつ^つも^もと^とひ^ひで^でふ^ふみ^み わ^わこ^こ い^い トンネル』の7冊が選ばれ、本日の選考会の対象とされた。</p> <p>最初の討議で、海老名^{えびな}名^{あや}、十田^{とおき}撓^な子^と、マーサ・ナカムラの3作品に選ばれた。どの作品にも選考委員それぞれが愛着を持ったが、海老名^{えびな}名^{あや}『きよりかん』は、全42頁の手作りの詩集で、その良さを発揮していた。異性との距離感から身体の内に入り込もうとする難しい方法を取りながら、その語感の素晴らしさと感受性の豊かさが評価された。しかし、収録作品数が少なすぎる。</p> <p>十田^{とおき}撓^な子^と『銘度利加』は、秋田と青森を結ぶ街道の、忘れられた地域の歴史を説話的に描いた力作。ロシア正教が入ってきて、その土地に沈むように聖書の世界があり、それを家族の歴史に結びつけて描く。アイディアと構成は貴重だが、言葉が淡々としていて類型的な表現が目立つことが惜しかった。もっと刈り込むことができたなら、さらに素晴らしい作品になったことだろう。</p> <p>マーサ・ナカムラ『狸の匣』は、圧倒的に詩を読むことの楽しさを教えてくれる。作者はどの時代にも潜り込むことができ、時間や空間の扱い方とその柔軟さ、そこに秘められたユーモアは天性のものと言える。昭和史を描き、家族を描き、それをクロスさせて一冊の詩集に閉じ込める力わざは、長編小説を読んだときのような魅力がある。詩を通してあらゆる時代に潜り込むことのできる面白さ。しかも普遍性がある。天才</p>							

的な言葉の膂力である。中原中也賞にこそふさわしい。

選考委員：^{あらかわようじ}荒川洋治、^{いさかようこ}井坂洋子、^{ささきみきろう}佐々木幹郎、^{たかはしげんいちろう}高橋源一郎、^{はちかいみみ}蜂飼耳（50音順・敬称略）

《山口市長コメント》

第23回中原中也賞が、マーサ・ナカムラさんの詩集『^{たぬき}狸の^{はこ}匣』に決定しましたことを、心から御祝い申し上げます。

この度受賞されましたマーサ・ナカムラさんが、今回の受賞を契機に尚一層、活躍の場を広げられ、さらなる飛躍をされますようを心から御期待申しあげます。今後とも多くの方々が、中原中也賞をひとつの目標として創作活動に励んでいただければ幸いです。

平成30年2月10日 山口市長 渡辺純忠

※受賞者の年齢は、2018.02.10 現在